

新規事業採択時評価結果(令和6年度新規事業化箇所)

担当課:道路局 環境安全・防災課
 担当課長名: 伊藤 高

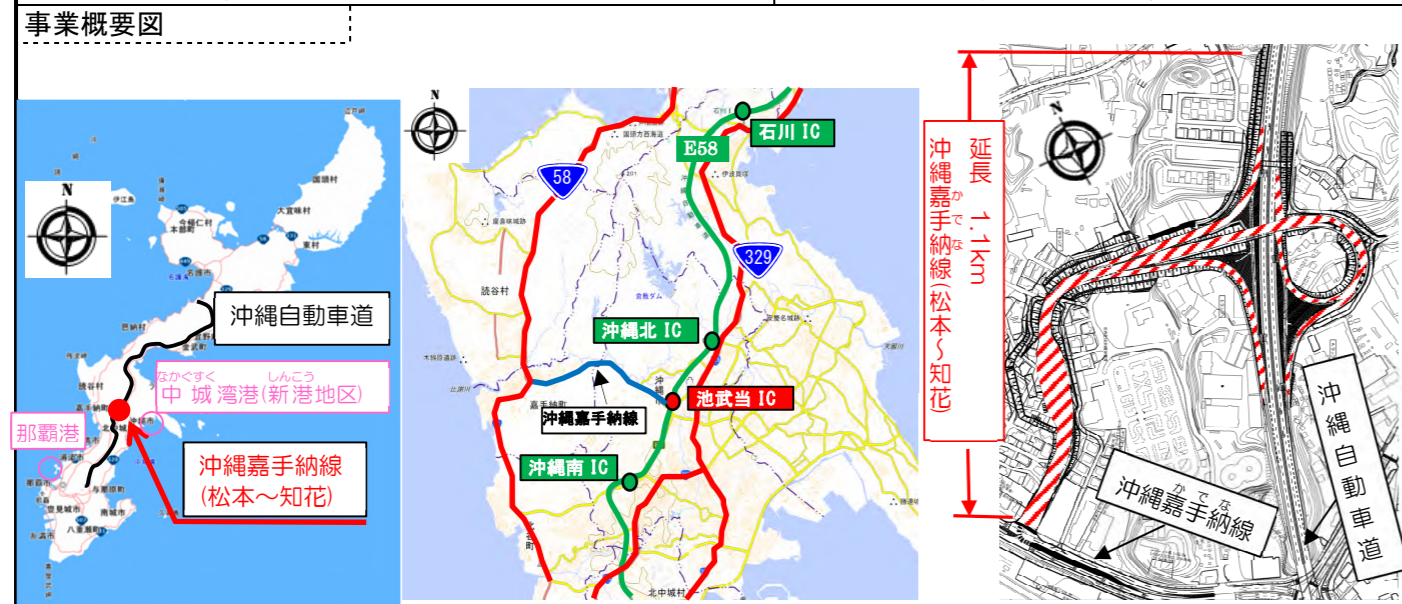
事業の概要

事業名	高規格ICアクセス 主要地方道 沖繩嘉手納線 松本～知花	事業区分	地方道	事業主体	沖縄県
起終点	自: 沖縄県沖繩市松本 至: 沖縄県沖繩市知花	延長	1.1km		

事業概要
 主要地方道沖繩嘉手納線は、沖縄自動車道に設置する地域活性化ICであり、沖縄県の「ハシゴ道路ネットワーク」に位置づけられた東西方向の幹線道路である主要地方道沖繩嘉手納線と接続する。
 嘉手納町および読谷村等方面等のアクセス性向上、周辺道路の交通混雑の緩和等を目的とし沖繩市松本～知花まで延長約1.1kmを整備するものである。

事業の目的、必要性
 当事業の整備により、縦軸幹線である沖縄自動車道と、横軸幹線である主要地方道沖繩嘉手納線を結び、嘉手納基地により、アクセスが制限されている嘉手納町・読谷村方面のICアクセスが向上する。ICの新設により、慢性的な渋滞により主要渋滞箇所指定されている沖繩北IC・沖繩南IC周辺道路の交通混雑の解消等が期待される

全体事業費 : 約111億円 計画交通量 : 約20,100台/日



関係する地方公共団体等の意見
 ・地元沖繩市が平成26年度から30年度にかけて検討を実施して構想案を取りまとめ、平成30年6月に整備に関する要請書を受けている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 -

事業採択の前提条件
 ・費用対便益: 便益が費用を上回っている。
 ・都市計画手続き完了(令和4年9月)等、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用便益分析	B/C	EIRR	総費用	108億円	総便益	316億円	基準年
	2.9	-	事業費:	98億円	走行時間短縮便益:	281億円	令和5年
			維持管理費:	10億円	走行経費減少便益:	29億円	
感度分析	交通量変動	-	事業期間変動	-	交通事故減少便益:	5.7億円	

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-
事故対策		○	・本整備より隣接する沖繩北IC・沖繩南ICからの分散により、交通負荷が軽減され交通事故の減少が期待される。
歩行空間		-	・注目すべき影響はない
社会全体への影響	住民生活	◎	・第三次救急医療機関である県立中部病院への搬送時間短縮に寄与する。 沖繩自動車道～県立中部病院の所要時間約13分⇒約7分
	地域経済	◎	・那覇港・那覇空港から中城湾港新港地区へのアクセス性が向上し、物流支援や周辺の企業誘致や雇用創出による地域活性化が期待される。
	災害	-	・注目すべき影響はない
	環境	-	・注目すべき影響はない
	地域社会	◎	・米軍基地により分断された嘉手納町・読谷村方面や、沖繩市臨海部エリアから沖繩自動車道への10分以内到達圏域が約7.8km ² 拡大(圏域人口約2.4万人増)、高速ICへの利便性向上、当該地域の都市機能強化につながる。
事業実施環境	◎	・都市計画手続き完了(令和4年9月) ・地元自治体の沖繩市より整備に関する要望を受けている。	

採択の理由

事業主体である沖縄県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が2.9と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、沖繩自動車道と中城湾港新港地区のアクセス性向上や、緊急輸送道路としての機能強化が見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。
 以上により、本事業は令和6年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。()内は社会的割引率の値